

令和5年度 医師の業務負担軽減計画

区分	大項目	小項目	前年度までの取り組み	今年度の目標	年度末の達成状況
① 医師・事務等の業務分担	ドクターズクラークの雇用		平成28年度より医師事務作業補助加算が算定できることになったことに伴い、さらなる医師の負担軽減のためにドクターズクラークの増員を計画した。また、優秀な人材については、無期雇用転換できるように制度を変更し、業務の安定化を図っている。令和4年度にはドクターズクラーク見直しWGを設置し、「体制、勤務形態、業務の標準化」について検討を行った。	ドクターズクラーク見直しWGの検討結果を踏まえ、今年度は、派遣職員や多様な勤務形態（短時間勤務）を活用した人員の確保、ドクターズクラーク全体への支援を行う事務職員（契約職員）を配置する等に取り組み、更なる医師の業務負担軽減を推進する。	
② 医師・事務等の業務分担	診断書作成補助		平成24年3月に設置した診断書作成支援部門（事務補助員7名）において、診断書受付及び医師の診断書下書き業務等を担ってきた。その後、平成27年4月より、診断書受付業務のみを外注化（これにより事務補助員2名削減）し、診断書受付業務と診断書下書き業務等を明確に切り分けることにより、事務補助員5名体制による下書き業務等の効率化を図ってきた。 また、文書作成システム「DocuMaker（ドキュメーカー）」において、診断書の新規登録及び更新登録を随時行い、煩雑な診断書の手書き作業を解消（効率化）し、医師の業務負担軽減を推進してきた。	文書作成システム「DocuMaker（ドキュメーカー）」において、引き続き診断書の新規登録及び更新登録を随時行い、煩雑な診断書の手書き作業を解消（効率化）し、医師の業務負担軽減を推進する。	
③ 医師の業務分担	・栄養士の病棟・外来への配置		専従栄養士の病棟配置：入院栄養管理体制加算（R4新規診療報酬）対象病棟を検討し、専従の管理栄養士を配置する。 専任栄養士：早期栄養介入加算の算定を検討する。 外来化学療法中患者への栄養食事指導の実施件数を増やす。	専従栄養士の病棟配置：入院栄養管理体制加算（R4新規診療報酬）対象病棟を検討し、専従の管理栄養士を配置する。 専任栄養士：早期栄養介入加算の算定を検討する。 外来化学療法中患者への栄養食事指導の実施件数を増やす。	
④ 医師・看護師の業務負担軽減	看護師が行う特定行為	特定行為研修者の育成および活用	特定行為研修指定研修機関として7名の特定行為研修修了者を育成した。2021年に修了した術中麻酔領域2名の手術室における麻酔科医とのタスクシフトを推進し、約2000件の特定行為を実施した	集中治療領域2名、術中麻酔領域2名の研修修了を支援する。 特定行為研修修了者12名の実践を支援する	
⑤ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）	事務的作業の代行	臨床分離菌株の梱包発送	医師からの依頼で菌株の精査を専門機関にて行う場合に分離培養、梱包、発送作業を行っている	現状を維持する。	
⑥ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）	事務的作業の代行	感染制御データ集計	感染制御部医師からの指示により、感染制御に関するデータの集計作業を行い、ICM会議等に報告している	現状を維持する。	
⑦ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	事務的作業の代行	行政アンケート等への回答の代行	厚労省や北海道からのアンケート（輸血に関するものが多い）に対し、輸血責任医師の代理として回答案を作成する。	現状を維持する。	
⑧ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	事務的作業の代行	院内輸血マニュアル整備	厚労省による「輸血療法の実施に関する指針」で示された、輸血責任医師による院内輸血マニュアルの整備・改訂を輸血検査技師が代行する。	現状を維持する。	
⑨ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	事務的作業の代行	自己血貯血のバックアップ	貯血依頼の評価（日程・貯血量など）や注意事項の周知を輸血責任医師に代わり実施する。	現状を維持する。	

令和5年度 医師の業務負担軽減計画

区分	大項目	小項目	前年度までの取り組み	今年度の目標	年度末の達成状況
⑩ 医師・事務等の業務分担	医師施行検査の技師施行への移行	電流知覚閾値測定検査の実施	新規	現在、麻酔科外来の診察中に、医師が痛みの検査（保険診療）を行っているが、その検査を生理機能検査室で請け負い、外来診療の効率化を図る。検査移行にあたり、機器移管と検査室のオーダシステム構築を計画する。	
⑪ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	医師施行超音波検査の技師施行への移行	小児患者の心エコーの対象拡大	従来、小児科医師が施行していたFontan術後患者の心エコーを令和3年4月から段階的に心エコー室技師が対応出来る体制へと移行し、その検査対応を維持してきている。	Fontan術後患者の心エコー室での検査対応を維持出来るようにする。（検査施行可能人員が昨年度の40%のため、件数は昨年度と比較して40%以上を維持したとみなす）	
⑫ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	画像診断管理加算	画像管理加算3の取得に必要な業務の一部を負担する	画像管理加算3に必要な撮影前の画像診断管理、患者の適切な被ばく線量の管理をサポートできるように、準備を進める。	画像管理加算3に必要な撮影前の画像診断管理をサポートできるように、システム改修を含め準備を進める。また、被ばく線量管理に専従する技師の増員が承認され次第、求人を行う。	
⑬ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	診療放射線技師法改正	RI薬剤の投与	法改正で義務付けられている告示研修の受講を順次進めていき、実施にむけて準備をする。	RI薬剤の投与実施にむけて、準備を進める（必要性の検討含む）。抜針業務を遂行する。	
⑭ 医師・事務等の業務分担	集計や文書作成での入力補助		事務補助員によるカンファレンス記録整備、帳票入力、集計・抽出等の事務作業補助を継続実施した。総合実施計画書等の記載期限や対応の遅延を事務補助員がチェックし各担当者へ必要時に連絡した。	事務補助員によるカンファレンス記録整備、帳票入力、集計・抽出等の事務作業補助を維持する。総合実施計画書、処方箋等において事務補助員によるチェック機能を継続する。	
⑮ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	神経心理学的検査の実施協力		新規	臨床心理士欠員に伴い、作業療法士による神経心理学的検査を実施する。	
⑯ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	実物大臓器立体模型製作における診療補助（歯科技工士）		画像等手術支援加算のための実物大臓器立体模型の製作について、ポスターを配布して更に周知し、新たな診療科からの依頼の増加を目指す。これによって、診察、検査、診断、手術の補助に役立ててもらい、医師の負担軽減を図る。	昨年に引き続き、実物大臓器立体模型の製作について、周知を行い新たな診療科との連携を進め医師の負担軽減を図る。造形モデル製作用3Dプリンターが経年劣化による不調が続いているため機器更新に向けて準備を進める。呼吸器外科から依頼のあった肺移植モデル完成に向けて検討を進める。	
⑰ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	3Dプリンターを用いた手術器具の製作（歯科技工士）		術前にシミュレーションソフトで手術計画を立てることで、手術の際に使用するオーダーメイドの器具（ガイド）を3Dプリンターで製作する。これによって、手術時間の大幅削減により医師および手術に関わるスタッフの負担を軽減する。	オーダーメイドのサージカルガイドは複雑な手術時間を大幅削減できることが高評価されたため、さらにソフトウェアを使いこなすためのトレーニングを行い、マニュアル整備を進め、医師の負担軽減に向けて推進する。	
⑱ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	メディカルスタッフが行う業務	医師の代替としての業務分担	調剤薬局からの疑義照会簡素化プロトコルの運用を開始した。	運用開始後の問題点を抽出し運用の最適化、拡大を検討する。	
⑲ 医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	メディカルスタッフが行う業務	医師の代替としての業務分担	薬剤管理指導依頼オーダの代行入力について検討し、院内全体の一括同意を取得する方法に変更した。	薬剤管理指導依頼オーダの一括同意取得について運用を開始する。	

令和5年度 医師の業務負担軽減計画

区分	大項目	小項目	前年度までの取り組み	今年度の目標	年度末の達成状況
⑳	医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	メディカルスタッフが行う業務	医師の代替としての業務分担	新規	RPA（Robotic Process Automation）の活用を検討する。 例えば特定薬剤治療管理料（TDM）の算定要件となっているカルテ記載漏れを抽出して医師に記載を促すなど。
㉑	医師・メディカルスタッフ（看護師を除く）の業務分担	メディカルスタッフが行う業務	医師の代替としての業務分担	新規	院内処方における疑義照会後の処方修正を代行入力する運用について検討する。

令和5年度 看護師の業務負担軽減計画

区分	大項目	小項目	前年度までの取り組み	今年度の目標	年度末の達成状況
① 看護師・事務等の業務分担	・栄養士の病棟・外来への配置		専従栄養士の病棟配置：入院栄養管理体制加算（R4新規診療報酬）対象病棟を検討し、専従の管理栄養士を配置する。 専任栄養士：早期栄養介入加算の算定を検討する。 外来化学療法中患者への栄養食事指導の実施件数を増やす。	専従栄養士の病棟配置：入院栄養管理体制加算（R4新規診療報酬）対象病棟を検討し、専従の管理栄養士を配置する。 専任栄養士：早期栄養介入加算の算定を検討する。 外来化学療法中患者への栄養食事指導の実施件数を増やす。	
② 人材活用	定年後の再雇用看護師の活用	積極的な雇用	個人の希望を確認し嘱託職員、短時間勤務職員など多様な働き方ができている。令和4年度に定年退職した看護師のうち4名が引き続き本院で勤務することとなった。 令和6年度以降、定年延長が行われるため、新たな働き方について検討する必要がある。	60歳以上の看護職がキャリアを活かして働き続けられるように支援する	
③ 看護補助者と看護師の業務分担	看護補助者の雇用	看護補助者の活用	令和3年から夜間看護補助者を雇用し夜間帯における患者周辺業務や搬送業務など委譲できた。病院雇用の看護助手が定年等で退職が相次ぎ、募集しても応募が少ないことから他の採用方法を検討した。	看護補助者業務を整理し、安全・安心な看護が提供できるよう、看護補助者を安定的に確保できるようにする	
④ 医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減	情報共有による報告連絡の省力化		新規	外泊訓練対象者の外出・外泊計画書は主に看護師が立案・作成しているため、その記載内容について、要点をまとめ簡略化することで計画書作成に要する負担軽減を目指す。 なお、簡略化するのは計画書の記載内容についてのみであり、実施する業務内容については変更しない。	

令和5年度 メディカルスタッフ（看護師を除く。）の業務負担軽減計画

区分	大項目	小項目	前年度までの取り組み	今年度の目標	年度末の達成状況
①	メディカルスタッフ（薬剤師、リハビリスタッフ、臨床検査技師、歯科、歯科衛生士など）	・栄養士の病棟・外来への配置	各チームの対象症例の栄養評価、ラウンドへの同行を行い、できるだけ多くの患者の病態にあわせた栄養評価を実施する。	専従栄養士の病棟配置：入院栄養管理体制加算（R4新規診療報酬）対象病棟を検討し、専従の管理栄養士を配置する。 専任栄養士：早期栄養介入加算の算定を検討する。 外来化学療法中患者への栄養食事指導の実施件数を増やす。	
②	メディカルスタッフの業務改善	研修	関連部門での研修を進めスタッフ相互の負担軽減を目指す。	引き続き研修を進めスタッフ相互の負担軽減を目指す。	
③	メディカルスタッフの業務改善	集計や文書作成での入力補助	新規	医療観察法診療支援システム入力用端末については、複数のスタッフで共用しているため、他のスタッフが使用している場合に、使用できず別の階に移動して使用されていない端末を探す等の不便が生じているため、端末の設置場所や台数について、検討を行う。	